

地域の歴史と市民の活動

① 瀬谷区の歴史を知る会」を想う
② いま宿場がおもしろい

①「瀬谷区の歴史を知る会」を想う

岩崎 肇

一 「瀬谷区の歴史を知る会」の設立

私共の「瀬谷区の歴史を知る会」でまとめました「瀬谷区の歴史(宗教編)」の発刊の挨拶に「燦々と輝く太陽、緑の大地、清らかな流れ、このような大自然の中に、私共の遠い祖先はこの地を開拓し、この地を育ててきた」とありますが、昔から日本では古いもの、伝統的なものを大切に守り育ててきたのだと思います。ところが終戦とともに、今まで知らなかった

文化が堰を切ったように流れこんで来ました。もちろんそれぞれの文化が交流し合い、お互いのよい面を取り入れるということは、とても大切なことなのだと思います。しかし新しい文化との出会いは、新しいものは貴び、古いものは全て悪につながるという社会を生み出してしまったようでもありました。

それから三〇年ほどが経過し、あわただしく変化してきた社会や、私共の生活にも、少しずつ落ち着きと余裕が生まれてきました。しかし

- 一 「瀬谷区の歴史を知る会」の設立
- 二 郷土の歴史を研究する
- 三 歴史研究を地域に生かして
- 四 会の活動を広げる
- 五 おわりに

その一方で、自分達の住んでいるまちを振り返ってみますと、そのころの瀬谷は、郊外部に進んできた開発により急速な都市化の波にさらされ、古いものはどんどん失われ、日毎に新しい町並みに変わっていくといったような状況でした。そうしたなかで、私共は郷土の歴史を知ることを通して自分達の住むまちを大切に、郷土を愛する、ということを目指す会をつくるため、有志数人が中心となり昭和四十九年一月に設立発起人会を開きました。そして同年二

月に「瀬谷区の歴史を知る会」を設立したので
す。これからの日本は、昔からの知恵をもう一
度見直して、大切にしなければならぬ時代に
なっていくのではないのでしょうか。

二——郷土の歴史を研究する

①「瀬谷区の歴史(宗教編)」を発刊

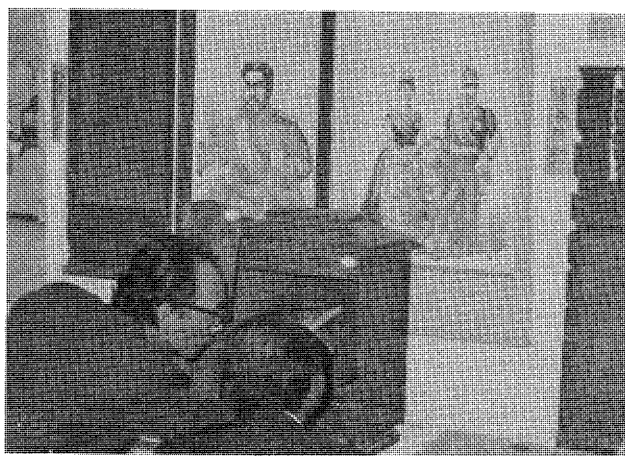
会の発足から、一カ月後の三月に、区内の神
社やお寺、石碑、石仏などを中心とした「瀬谷
区の歴史(宗教編)」の編纂にとりかかることに
なりました。

会員がそれぞれ付近の神社や仏閣を担当し
て、調べた資料を編集委員会にかけ、写真を数
多く掲載した、見て分かるといった内容にいた
しました。こうして会員みんなの努力により、
約一年をかけて昭和五十五年五月に「瀬谷区の歴
史(宗教編)」は完成しました。郷土を思う気持ち
は人一倍でも、歴史に関しては素人の集まりが
つくりました書物なので、専門の方々が見られ
たらどのようにご批評をなされるかは存じませ
んが、私共の真剣さをお汲みいただけるなら、
これに勝る仕合わせはございません。また、書
物を出版するのは初めてのことです、どのくらい
の部数にしてよいのかも分からず、この時は
一、〇〇〇部印刷したのですが、思いのほか評

判がよく、わずか数日で売り切れになってしま
いました。

「瀬谷区の歴史(宗教編)」は一〇〇〇頁に満たな
い書物ですが、会員だけの力でできたもので、
「瀬谷区の歴史を知る会」の第一回の成果だけ
に喜びは又ひとしおでありました。今にして思
えば、発足間もない会が書物をつくらうなどと
いうのは、無謀な計画であったのかも知れませ
ん。しかし、このときの経験は「瀬谷区の歴史
を知る会」のそれからの活動に、大きな意味を
もったと思います。

写真一 「瀬谷区の歴史(宗教編)」出版記念民俗展



また「瀬谷区の歴史(宗教編)」の出版に際し
て、記念事業として民俗展を行いました。私共
の会で保管している江戸期以来の農具、生活用
具、古文書等、合わせて三千数百点、その他、
歴史研究家古川甫氏より所蔵品数百点の出版を
いただき行ったのですが、会場の区役所会議室
や公会堂は、会期中の四日間、区内外の人達で
一杯となりました。

「瀬谷区の歴史(宗教編)」は、その後各方面か
らの要望がつよく、昭和五十五年一月に一部を
改訂して五〇〇部を発行いたしました。

② 民俗資料及び古文書の収集

「瀬谷区の歴史(宗教編)」の執筆で会員が苦心
しているさなにも、時代の波は私共の町を急
速に変貌させ、昔の古い家は壊され、周りから
は日毎に農村の面影が薄らいでいきました。そ
のままにしておいては、昔の農具や生活用具は
全く無くなってしまいます。こうした先祖の遺
産は、一度失われてしまえば元通り復元するこ
となどできる筈もなく、後世に悔いを残すこと
になります。そこで急ぎよ昭和四十九年八月
九月に、これらの農具、生活用具などの収集に
とりかかったのです。

時期がちょうど八月から九月にかけての暑い
頃のこと、汗とほこりの中での作業が一カ月余

り続けられました。おかげで集まった品物を保管するには苦心させられました。約二、〇〇〇点を超える資料が集まったのです。しかも同時に、今までこの地方には全く存在しないとされていた古文書が大量に発見されるなど、大きな功績をあげることができました。

このようにして発見される古文書の数は、会の活動とともにその後もふえ続け、その実績により昭和五十年八月に県史編集室の人達に来ていただきました。このとき青山先生をはじめとした編集室の人達は、古文書を幾日もかけて文書別に整理してくださいました。こうした県史編集に協力することで、私共が地域より掘り起こした古文書が日の目を見たことは、会員にとって励みとなる嬉しいことでした。

その後、昭和五十一年一月に旧家を訪問し古文書を撮影するといった作業を企画しました。古文書はその持ち主にとって大切なもので、当会で預かれないものが多くあります。そこで写真撮影をすることになったのですが、いざ実行することになると、専門家ではない私共がそのための機材を持つているわけはなく、会員有志の協力によりなんとか成し遂げることができたのです。

③—古老の話を聞く会

区内の北村新道地区には、五〇年ぐらい前まで昔よりの歌題目が続いていたので、覚えておられるお年寄りを訪問して、録音をさせていただきました。このとき若い会員の中にお題目が復活し、人から人へ語り継がれるといった自然なかたちで後世に残せる可能性がでてきました。

こうした企画は昭和五十一年四月より始まり、会員が各町内に出張して土地のお年寄りに集まっていたとき、昔の話や唄などを聞かせてもらいました。このときに、みんな遠慮をすのかなか話を引き出すことができないなどといった、思いもよらない苦労もありました。しかし郷土の歴史を知るためには、古文書や資料のみに歴史的価値があるのではないと思います。このようにお年寄りの話を聞き、これを録音することは、生きた知識を得ることができるととても重要なことです。

④—阿久和町大久保原縄文遺跡発掘

この地には縄文時代の土器が出るので発掘しようとの意見が出され、実行することになりました。ところで、そうした遺跡の発掘は県関係機関の認可がなければ着手できません。瀬谷中学校の植木律之先生が有資格者であり、ご本人の協力をえて阿久和町大久保原縄文遺跡発掘

の作業に着手しました。この事業は当会発足以来の大きな作業となりました。次にその調査の概要を記したいと思います。

⑦ 調査期間

昭和五十二年三月～七月

① 調査担当者

植木律之

② 調査面積

約七〇〇平方メートル

⑤ 調査の課題と方法

瀬谷区阿久和町の旧小学校跡付近からは、かつてより縄文時代中期の釣手型土器の出土があるが、急激な都市化により土器の散布地も宅地造成され、その大半が失われようとしていた。

かかる状況により本会では、文化財保護の立場から表記発掘案が提出され、地主の好意ある承諾をえてこれを実施した。

③ 遺構

分布調査の結果では、本丘陵の広範な地域に縄文時代の土器片が散在し、また北端部には土師、北東部一帯小地域にヤマトシジミの散布が確認できた。

④ 出土した遺物

ア) 土器

各区域より出土したが、縄文時代の所産で破片が多く、後期掘之内式、加曾利B式が中心で

あった。

(イ) 土製品

縄文土器にともなつて土器片利用の土製円板が出土した。

(ロ) 石器

打製石斧、局部磨製石斧、磨製石斧、石鏃、砥石、石皿、磨石類、石錘が若干出土した。

以上の発掘結果のように、完全なものとはほとんどなく、すでに農耕時に破損した物もあつたことと想像します。

⑤「瀨谷区の歴史(生活資料編)」の発刊

前にも記したように、瀨谷区では昭和四十九年夏以来、旧家より多数の古文書が発見されました。しかし古文書を持っていたとしても、それを読むことができなければ意味がありません。

そこで昭和五十年六月〜七月にかけて、各方面より講師をお迎えして古文書解読の勉強会を開催いたしました。この勉強会により、字体が難解なものが多く、むずかしい古文書が少しずつ読めるようになり、それがまた「瀨谷区の歴史(生活資料編)」の発刊につながりました。古文書などの資料を解読し、江戸期を中心に編集したものを「瀨谷区の歴史(生活資料編一)」、明治時代、大正時代、昭和二十年までを編集した

ものを「瀨谷区の歴史(生活資料編二)」としました。

この書の発刊作業は当会の試練の時でもあり、困難な作業に会員はつきつきと数を減らしていき、五〇人ほどいた会員が一時一〇数人を残すのみとなりました。

⑦「瀨谷区の歴史(生活資料編一)」

この本は二七〇頁余りのB5判作りで、江戸時代の検地、領主と農民、地頭と名主、村明細、宗門人別、五人組、年貢、助郷、事件、江戸時代の生活、古老の話、地名由来等、多岐にわたつた内容となっております。企画してより満一年二カ月後の昭和五十一年十月に発刊をすることができ、皆様のご好評をいただきました。

また発刊記念に際しては風俗展を企画し、瀨谷公会堂のロビーや区役所の会議室などをお借りして、古文書、地図、写真などを飾り四日間 にわたり開催いたしました。なかでも幅二メートル、長さ三メートルの大地図は、四本一組で瀨谷区の昔が一目でわかり、誰もが足を止めてみるほど好評でした。

⑧「瀨谷区の歴史(生活資料編二)」

激動と変動の明治から昭和にいたる八〇年間を扱つたためか、資料の散逸、消滅など、資料収集に困難を極め、多くの方々の協力と会員のたゆみない努力により、二年の歳月をかけよう

やく昭和五十四年三月に出版できました。

世相篇、村政篇、組織篇、租税篇、教育篇、農家篇など一一篇にわたつて編集し、その他古老の話、民衆の生活など素朴な農村の生活を飾り気無しに表した内容にいたしました。

三——歴史研究を地域に生かして

①——郷土の資料を活用する

⑦ 民俗資料保存庫の建設

活動とともに当会の保存する昔の農具、生活用品など、歴史的価値のある資料の数がだんだんと増えてきて、保管、格納する場所がなく困つていましたが、区役所の前に土地(約一二〇平方メートル)をお借りできることになり、素人作りの資料庫をつくることになりました。昭和五十三年一月に民俗資料保存庫の建設計画を立て、同年五月に完成いたしました。

約一〇〇平方メートルの小さな建物なので、大きなものは入れることができませんが、棚を三段に区切るなど、いろいろと工夫をして、一点でも多く収納できるようにしました。おかげで大農具をその中に保管することは無理としても、なんとか保存庫らしくなつてくれました。この保存庫は、それまで会で集めた資料をいれてまだ余裕があり、昭和五十三年七月〜九月

に収納する品物の追加収集を行いました。

その後、瀬谷区の区制一〇周年記念事業のおりには記念誌編集に協力したと併せて、この資料保存庫の公開をいたしました。

また資料庫には昔よりの火消し用具、手押しポンプ、龍吐水、はしご類、消防のはつびなどがあり、昭和五十六年八月には防災展を行いました。このような会を開催し、防災に対する住民意識の高揚に寄与することができれば、「瀬谷区の歴史を知る会」の目的に一致することだと思えます。今後も時期をみて、こうした企画をまた考えていきたいと思えます。

④市立瀬谷小学校教室に郷土資料館

最近市内の小学校では、児童数が減少して空いている教室がでてきました。そこで、瀬谷小学校と当会との間で空いている教室を資料館として使い、併せて一般にも開放しようという計画がもたれました。民俗資料は当会の所有のものを提供し、教室を使うことは市教育委員会の許可を得て、昭和六十年十月に郷土資料館の設置を実現することができました。以後の運用については学校側の教育的利用のほか、一般への開放日を定め、会員が当番制で掃除などをしております。

②―地域の史跡を活用する

瀬谷区には毎年多数の人達が越してこられ、今では一〇万人を超えるような区になりました。新しく越してきて、自分の住む土地の歴史をほとんど知らない人達が、私共の会の活動を通してこの土地の良さを知り、郷土を愛するきっかけになればと思います。

実際に「瀬谷区の歴史を知る会」の現在の会員構成をみてみましても、新しくこの土地に住み、五、一〇年ほどたった人の参加が非常に多く、全体の会員の七割から八割はそうした人達

なのではないのでしょうか。こうしたことにも、誰もが本来持っている、自分が住む地域に対する気持ちが表われているような気がします。

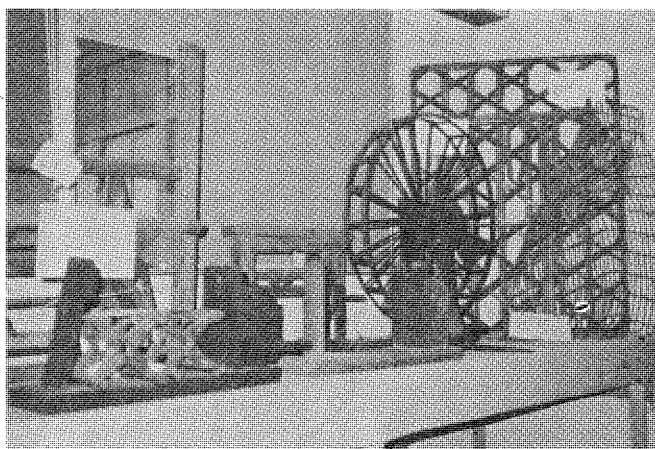
ところで、「瀬谷区の歴史を知る会」の発足当時は会員であっても郷土の歴史には暗い人が多く、昭和五十年五月に二日間にわたって区内の歴史散歩を行いました。地域のことを知るためには、自分の足で歩くということがとても大切なのだと思えます。この会員による地域の史跡めぐりの試みは、「ファミリーピクニックコース」の決定に大いに役立ちました。

この「ファミリーピクニックコース」は区役所と当会が企画したもので、昭和五十二年九月下旬に、地域の史跡を数多く配した南北両コースが決定されました。両コースとも交通事情などを考慮して、できるだけ車の通りの少ない道を中心に、気持ちよく歩ける二時間半ほどのコースにしてあり、当会で道標（道路案内）及び由来板の作製をいたしました。

その後、南北両コースの評判がよかったため、瀬谷区の中央部を通る西コースの作成が企画され、昭和五十三年十一月より五十四年四月までかかって、このコースは完成いたしました。

またこのピクニックコースは、テレビ神奈川で紹介されたことや、区役所主催による「ふるさとめぐり」の東西南北四コースがピクニック

写真一 2 空教室を使った郷土資料館



コースを中心に行われるなど、現在では会の内外を問わずみんなに親しまれる散歩道になっているようです。

③ 区役所の事業に協力する

⑦「瀬谷区の歴史地図」作成

区役所主催の企画を、当会が中心となり区内各地の神社仏閣、石碑、石仏の全てを撮影し、説明をつけて「瀬谷区の歴史地図」を制作しました。

昭和五十二年五月に企画されてから、一年近くをかけてつくり、昭和五十三年四月に三、〇〇〇部印刷しました。

⑧「瀬谷区の歴史かるた」の作成

区役所の自主事業として計画されたのですが、「瀬谷区の歴史かるた」の制作に当会が協力いたしました。会員の小林小太郎氏が絵と文を考え、昭和五十五年十二月に五、五〇〇部を出すことができました。

昭和五十六年一月に区役所のロビーでこの「歴史かるた」の原画展を開き、また昭和六十二年七月に「歴史かるた」を拡大して、ベニヤ板に張りつけた特大かるたをつくり、小学校の歴史教育と子供達の郷土愛をはぐくむ一助にと、区内の全校に寄贈しました。このときには、各校の代表者が集まり瀬谷小学校で贈呈式が行

われました。

⑨「民話と昔話」の編集

これも区役所の自主事業として計画されたのですが、当地方には特筆するような昔話がほとんど存在しません。古老の話や言い伝えに、当会の会員が筆をとってなんとか昔話ができました。私共がまとめた話を、以前アナウンサーをしていらした方が中心になってテープに録音していただき、併せて作りました小冊子と共に一対とし、昭和五十九年五月に「民話と昔話」

は完成いたしました。

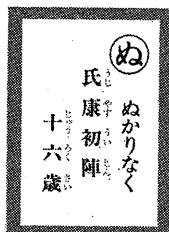
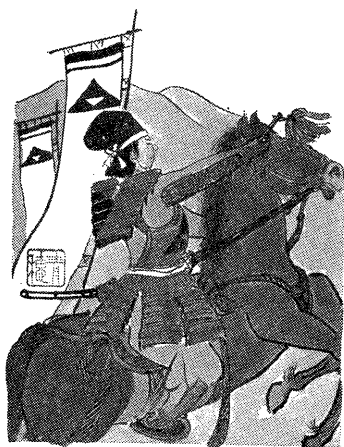
四——会の活動を広げる

本会が発足しました昭和四十九年より五十六年の間は、勉強に次ぐ勉強で大変であったらしく、前述した通り会員の数は減少していきまし。しかし会の活動を通して郷土を大切にするという目的を実現するには、より多くの人の参加が必要なのだと思います。そのためには会の魅力作りや、誰でも参加できるシステムを考え、ていく必要があります。

まず、どのような会にしても先立つものは資金で、年会費一人二、〇〇〇円の収入だけでは当初は運営ができませんでした。そこで区内の会社、工場、個人の方々にお願ひし、資金の協力をしていただきました。初年度は約八〇会員、以後年々増加して最高約一二〇会員にも達しました。こうして賛助会員の方々には昭和五十九年までご協力をいただき、その後本会の経理状況がよくなったこともあり、現在は自分達の資金だけでなんとかやっております。

また私共の会は、学問としての歴史を研究し極めるという方々と異なり、歴史の研究だけにどまらず、活動を広げ地域を良くしていきたい

写真—3 歴史かるた



いと考えております。現在は歴史散歩や、区内の神社やお寺をお借りして開いている巡回歴史講座などに力をいれて、会の活動を行っております。こうした企画には、中年のご婦人の参加もめだつて多くなり、一〇〇人を超える日もあるほど人気を集めるようになりました。このような状況に、時には申し込みの制限をしたり、会場の選定にも考慮するなど、事務局はうれしい悲鳴をあげております。

次に、私共の会で最近行っている新しい試みを、いくつかご紹介したいと思います。

①—暁天座禅会開催

第一回暁天座禅会は数カ月をかけて企画し、市の広報に載せていただくなど広く一般の参加を求め、昭和五十五年八月の最終日曜日に行いました（以後毎年この日に行い、現在も続いております）。

会場は瀬谷駅より一〇分の曹洞宗、瀬谷山徳善寺で、木々の繁った静かな寺院で、萩で知ら

れています。

午前五時三〇分集合、導師の座禅についてのお話の後、六時より本堂に入り座禅を組むのですが、座布という円形の座布団のようなものに三分の一ぐらい腰をかけ、「半かくし座」という組み方をします。導師の打つ鐘の音とともに座禅に入り、一回三〇分くらいで終わります。

座禅の後一汁一菜のおかゆが出るのですが、これは本会の女子役員がつくりまします。座禅の後のすがすがしい気分でおかゆのうまさもまた格別です。

通常四〇人前後の人が毎年参加され、この座禅会の様子は毎年のように新聞に掲載されています。

②—皇居一周歴史散歩

歴史散歩の一環として位置づけ、会として皇居一周を企画し、この時は約五〇人の人達が参加しました。千代田区役所の人がいるいと面倒を見てくださり、初めて皇居の庭園に行つた

人も多く、参加者にはたいへん喜ばれました。

五——おわりに

郷土の歴史を知ることを通して、自分達の住むまちを大切に、郷土を愛するということから始めた私共の会も、来年で設立一五年となりま

す。
私も年齢すでに七五歳、現在は楽しみながら勉強をし、郷土を大切にしていこうということと会を運営しておりますが、これからもこの会の仕事がどこまでできるか、大いに頑張りたいと思います。最後にいつも事務局で苦勞してくれる区市民課の方々や、一緒にやってくれる会員の皆様に感謝をいたします。

文中失礼な点多々あったことをお詫びして拙文を終わります。

△瀬谷区の歴史を知る会「会長」